

第3回 共同輸配送促進に向けたマッチングの仕組みに関する検討会 議事概要

1 日時

平成28年03月24日(木)13:00～15:00

2 場所

商工会館

3 議事概要

1. 事務局より、本年度の試行実験結果、実験参加企業へ行った試行後のアンケートおよびインタビュー結果、試行中に登録されたデータの傾向分析結果、及び、本年度試行実験のまとめと最終報告内容について資料を説明。

2. 委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

○実験結果の評価にあたっては、本事業の目的に鑑み、マッチング成立件数だけでなくマッチング企業ペア数に対しても行った方がよい。また、荷主同士のマッチング促進に向けては、今回の事業が対象としたのは一部の領域と考え、それぞれの企業の物流部門の特徴などにも配慮した上で、今後更なる検討が必要である。

○構築したマッチングシステムはシンプルで違和感なく使用できた。また今回の事業は異業種間の共配を行うためのプラットフォームを作ったのだと認識している。今後、荷量のピークが異なる異業種の企業間等で共配を実現する事で、荷量の振れ幅をコントロールできれば、トラックの安定的な利用につながり、CO2 はかなり削減できると考える。

○荷量の平準化を図ることは、物流効率化に大きなインパクトを与える。同業種間での共配は従来からよく実施されているが、同業であるが故に、ピークが重なることで荷量の振れ幅に拍車がかかる場合もある。

○参加企業の荷主がどの都道府県に拠点を持っているかをマップ上にプロットすれば、貨物の発地のバランスがわかる。また荷受人(エンドユーザー)の商流決済が物流に及ぼす影響は大きい。荷受人(エンドユーザー)も巻き込んだ CO2 削減に向けた活動も重要である。

- 今回の試行実験の参加企業にまずは感謝する。実験結果で見えたマッチング成立条件やマッチング不成立の要因を分析・整理した内容は、共同輸配送促進のための環境整備やドライバー不足に対する解決策の糸口になるはずである。本調査結果を踏まえ、引き続き共同輸配送促進に関する検討を進めていただきたい。

- 2年間の事業の中で、システムを活用した共同輸配送促進に関する検討を行い、実際に企業間でマッチングに至る事例を作ることができた。事業に協力していただいた関係企業・検討会メンバーに感謝する。先日の中央環境審議会と産業構造審議会との合同部会で、地球温暖化対策推進計画の中に、共同輸配送というキーワードが盛り込まれた。本調査事業の結果を踏まえ、引き続き事業者・消費者の利便性とCO₂排出削減を両立する施策の展開を検討していきたい。

以上
(文責 事務局)